



花だより

鳥だより

ポロト案内舎 2021年 4月 112号



早々に根雪は消えましたが、雪は幾度となく降りました。ポカポカ陽気の後の降雪はこたえます。春から一気に冬に引き戻される感じです。それでも緑は着実に面積を広げています。鳥のさえずりに厚みが増してきました。やっぱり4月は春です。



## ポロト沼のタンチョウ

## 波乱なく順調か？



昨年は、まさかのなわばり略奪、その後の繁殖失敗と目まぐるしい展開が見られました。しかし今年は、なわばりを奪われたNo.246が早期にポロト沼に戻り、何事もなかったかのように、抱卵を続けています。侵入タンチョウとの激しい争いは、今のところありません。

抱卵中は1羽しか沼に姿を現しません。もう1羽は巣にこもり卵を暖め続けています。交代のタイミングは、早朝と夕方。その時刻になると、湿原から鳴き声が聞こえてきます。昼間はオスが卵を暖め、メスが食事をしています。夜はメスが巣に入るので、オスが

食事をする時間はあまりありません。特に夕方は、暗くなる前に、せっせと腹ごしらえをしています。

なわばりの持ち主が代わっても、巣の位置は毎年ほぼ同じです。抱卵を交代するとき、その場所がわかります。そして、座ってしまえば全く見えなくなります。この2本の木が目印になっています。





## 芽吹きたち



雪がとけ暖かくなると、大地から様々な芽が出てきます。上の写真はどちらもバイケイソウ。6月には、緑色の梅に似た小さな花をたくさんつけます。左は4月上旬ころ、地下茎からハート形に芽吹き始めました。それが1か月たつと、右のようにひと固まりになりました。団結し共に成長していくようです。



左の写真はギョウジャニンニク。春の山菜の代表格です。案内舎の敷地とその周りには、ギョウジャニンニクの群落が3か所あります。斜面の上側から芽を出し始め、沼側が一番遅くなる順番です。時期がずれているので、毎年長くおいしくいただいています。同じところではばかり採っていると、茎が細くなる傾向があります。来年のために、ちょっとだけいただくのがポイントです。

右の芽生えはクロユリです。本州では高山植物のクロユリが、ここでは海のそばの道端にも咲きます。芽生えだけでは、何だかわかりづらいですが、毎年同じ場所に咲くのでわかるようになりました。この植物も花を咲かせるまでには、10年ほどの下積み生活を過ごします。毎年葉をつけ、養分を根に蓄え、花を咲かせるのです。オオバナノエンレイソウと同じですね。





## 早春の花たち



4月の案内舎の庭には、アキタブキがたくさん咲きます。フキノトウの薄皮が開き、ブーケのような花が、庭のあちらこちらに現れます。よく見ると、花は2種類あることがわかります。左が雌花、右が雄花です。雄花のほうが先に花開き、雌花が咲くのを待っています。虫たちが雄花の花粉を雌花に運び、受粉が行われます。受粉が完了すると、雌花はグングン茎を高く伸ばし、綿毛のついた種を風に飛ばします。そのころ雄花は枯れ、どこにあったかもわからなくなっています。



早春の森では、沢沿いに水芭蕉が咲いています。水の流れが多いところに、たくさんかたまっているように咲いています。雪どけと競うかのように花を咲かせます。まるでフクジュソウのようです。白い部分は花ではなく、花を包み込む苞、仏炎苞（ぶつえんほう）と呼ばれています。緑の少ない森の中に、燈明のように白い仏炎苞が連なっています。これを目当てに虫が集まってくるのでしょうか。

最後はバッコウヤナギの花。白い花芽が膨らんで、暖かい日にほころび、黄色い花がたくさん出てきます。この黄色は雄しべ。花弁はありません。春の野山では、ヤナギが真っ先に花を咲かせます。そして、葉をつけるのも一番です。とにかく、他の木よりも先へ先へと進んでいきます。ミズナラが葉をつける頃には、もう種を風に乘せて飛ばしています。





## 夏鳥が来ました



20日の早朝に、ウグイスの初鳴きを聞きました。同じ日にノビタキが戻ってきました。その翌日には美声を披露してくれました。ノビタキの姿を見かけると、よくもこんな小さな体で、東南アジアから数千キロの長旅を乗り越えてきたものだと感心します。

オオジシギは26日の夕方に、ズビヤーク、ズビヤークと、懐かしい声に続いて、急降下中に尾羽を広げてたてるザ、ザ、ザーの羽音が聞かれました。こちらはオーストラリアから、休まず海を飛び越えてきたとは思えない力強さで、早速フライングディスプレイを行っています。しかも、夜になってもフライングディスプレイはやめません。昼間より頻度が多いくらいです。この夜は、沼を越えた先の森からフクロウの「ホー、ホー、ゴロスケホッ、ホッ」の声も聞こえてきました。夜のポロトは静かなので、遠くで鳴くフクロウの声が大きく響いてきます。



27日にはアオジとアリスイが戻ってきました。アリスイは庭の巣箱にやって来ました。昨年はコロナの影響で人の気配がほとんどなく、警戒心の強いアリスイが、初めて巣箱で子育てを行いました。さて、今年はどうでしょうね。

4月後半から5月にかけては、毎朝起きるのが楽しみになります。案内舎の周りでさえずる小鳥たちのコーラスが、厚みを増してく

るからです。昨日まで聞かれなかった鳥の音が、不意に聞こえてきます。そろそろコマドリやアカハラもさえずり始める頃です。

**\*写真は以前のものを使っています。**